

シンポジウム「生徒の目が輝くとき」

司 会 : 早瀬光秋 (三重大学)、荻原洋 (富山大学)

パネリスト: ①江利川春雄 (和歌山大学)、②森田康寛 (富山県・南砺市立井波中学校)、
③上山晋平 (広島県・福山市立福山中・高等学校)

外国語を学ぶということは人生の宝探しをしているようなものだという人がいます。私たち英語教員の多くは、どこかで運良く宝 (の一部) を見つけることができたから今英語を教えているのかもしれない。私たちが自分の生徒に同じようにワクワク・ドキドキする外国語との出会いを体験させてあげるにはどうしたら良いでしょう。シンポジウムではまず江利川先生に生徒の目を曇らせる原因と協同的な学びの大切さについて発表して頂き、続いて森田先生、上山先生のお二人に御自分の実践を紹介して頂きながら、どのような時に生徒の目が輝くのか語って頂こうと思います。

①生徒の目を輝かせる学び愛の協同学習

江利川 春雄

<生徒の目を曇らせるもの>

「グローバル人材」のための人間教育を忘れた英語スキル主義、英語エリート育成政策、「大学入試に TOEFL」などの試験漬け、「英語で授業」の強制、条件整備なき小学校英語の教科化、40人学級と教師不足の放置、スマホ時代に合わない chalk と talk の講義、教科指導を忘れた生徒指導とクラブ指導、授業改善に取り組めない多忙化。

<生徒の目を輝かせるもの>

ことばと文化の深さ多様さに気づくドキドキ感、英語で世界とつながる喜び、わからないところを聞き合える仲間、仲間に信頼され自分も役に立っている居場所感、安心して失敗し挑戦できる教室空間、得意な子も苦手な子も全員が伸びる授業、先生も地域住民も学び合える授業研究協議会、少人数集団での学び合い高め合いによる協同学習と「学びの共同体」づくり。そして、生徒の人間的な成長のために理不尽な政策と闘い、教育・労働条件の改善に取り組む教員の姿。

②生徒の目を輝かせる指導理論とその具体的方法

森田 康寛

1 私の指導理論を変えたもの

○教科書ベッタリの私の授業を変えたアスンシオン日本人学校(パラグアイ)派遣

- ・派遣前は多忙さのため、周囲に「生かされている」状況だった。
- ・海外派遣中はある程度のゆとりが生まれ、「自分で生きているんだ」という実感を得た。

→スペイン語での現地の人々との交流から、コミュニケーションを図る時の「ことば」の有効性や重要性、また Input の重要性を強く実感することができた。

→コミュニケーションのツールとしての「使える英語」を目指した指導を模索

・経済的に貧しい人々やストリートチルドレンの現状を目の当たりにしたショック

→グローバルな視点をもった生徒の育成、世界の現状を変えるために英語を使って世界に自分の考えを発信しようとする態度の育成に力を入れるようになった。

2 「使える英語」を目指した実践

○Input の重要性→有効な Input の方法を模索→Power Up Skit(帯学習)の開発

・Mechanical Input から Creative Input に転換・・・「使える英語」を実感した喜び

→「口から自然に英語が飛び出てくる」「書きたいことがスラスラと書ける」という生徒の反応

3 転んでも痛くない集団作り (Comfortable な学習集団)

○積極的生徒指導の機能を有効に活用した授業づくり

・ソシオをベースにしたペアリング・・・リーダーとパートナーによる助け合い学習

・「大事メッセージ」を伝える生徒指導

③生徒の目を輝かせる教師に必要な「心構え」と「研修」

上山 晋平

1 生徒の目が輝くとき

○ある授業(1回)で輝く場合:生徒と「人間関係」ができる前でも可能

○長期的に輝く場合:授業と授業以外の場で、生徒と良い「人間関係」がある

「先生、結婚式に呼びます」「先生、初めての給料が入ったら一緒に飲みに行きましょう」

2 生徒の目が輝く授業

○授業がうまくいったとき=授業後に生徒が教卓に集まる

○生徒の目が輝く授業=生徒が楽しい授業=教師が楽しい授業

→授業が待ち遠しくなる準備

3 生徒と良い関係を築く

○「愛される経験 (FOR YOU の精神)」を提供(「私のためにわざわざ・・・」)

○愛される経験をした人は、人に愛を与えるようになる(返報の法則)

○幸せの4条件:「伸役認愛」

○一生の付き合いと思って教育に当たる

4 「生徒の目が輝く授業」を創るのに必要なこと

①授業の充実・改善を図る(授業について学ぶ)

②生徒との人間関係を良くする(人間観や教育観を高める)

*これらを達成する心構えや研修方法は?